

特別支援学級生活単元の実践

1. 単元名 お店屋さんを開こう

- ### 2. 単元目標
- ・活動を通して、コミュニケーション能力を高めることができる。
 - ・進んでお店屋さんを開くための話し合いや準備をすることができる。
 - ・自分や友だちの役割が分かり、役割をやり遂げようと努力することができる。
 - ・活動を振り返ることにより達成感を味わったり、課題を見つけたりして、今後の活動に生かすことができる。

3. ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

※本校では、特別支援学級を個学と呼んでいる。

①教材について

この単元は、今までの学習を生かしお店屋さんを開くための、計画や準備や振り返りを含む単元である。児童の大好きなハンバーグのお店屋さんを提案し、お店屋さんごっこ遊びを展開する中で、ごっこ遊びの楽しさを味わわせるとともに、買い物に必要なスキルや、店員の立場を疑似体験させることにより、実生活に必要な事柄を身に付け、生活力の向上に役立つと考えこの教材を選んだ。より本物に近い道具を使い、将来必要になってくるコミュニケーション能力や技能を身につけるための活動を行うにはふさわしい教材である。また、職員がお客役をすることでお互いの交流を図ることができ、児童の苦手な金銭感覚やコミュニケーション能力が向上すると思われる。他教科とも関連付けて教材の作成やお金の計算も練習でき、児童の実態に合わせて学習の幅が広がる教材である。

個学の児童はそれぞれ障害の度合いも違い、やりたいこととできることが必ずしも一致するとは限らない。実際に店に行き、店員の方の仕事や動きを見て「これならできるかもしれない」と今の自分にできそうなことを考え、自分の力に見合った仕事を選ぶことも大切な学習である。

②指導観

特学ではごっこ遊びを通して学習を行うことがよくあるが、校内で関わりの少ない教師にお客になってもらい本物に近い容器やお金を用いることで、ほどよい緊張感を感じながら学習を行っていく。

夏休み中に行ったお店の振り返りから、「お店屋さんをひらきたい」ということになった。「ポテト」が好きだから「ハンバーガー屋さんを開きたい」、「先生たちを招待したい」という願いが生まれ、ハンバーガー屋さんを開き、お客さんに来てもらえるようなハンバーガー屋さんを目指す学習になった。

今回の学習にあたって、2度のマクドナルドへの訪問を行う。店の様子を知ることはもちろんだが、バスの乗り方についての学習も行いたい。肢体不自由の児童も車椅子でバスに乗り、お金の支払い方も学ぶ。個学の児童は周りの人に力を借りながら生きていかなければならない。そのためには困ったとき助けを頼んだり、知らない人に自分から声をかけたりしなければいけない場面の練習も必要である。そして感謝の気持ちを何かしらの手段で伝える方法も学ぶいい機会になる。

役割としては、レジ、商品を作る、渡す、運ぶ、片付けるなどが考えられる。

単元終了時に、実習も兼ねて何かを作り教師に買ってもらい、そのお金でマクドナルドへ行きお礼をするという学習も行う予定である。

この単元の学習を通し、自分の仕事を一生懸命やり抜くことの大切さや充実感を味わわせたい。また、友達と一緒に学習することで、互いに頑張ったこと、できるようになったことを認め合い、友達のよさを再認識してもらいたい。

④ひびき合いについて

児童は練習が進むに連れて自分の役割を意識し、それぞれがしっかり取り組もうとがんばっている。教師や仲間から認められ積極的に取り組もうとする姿、また、お客役職員に認められることによりさらに自信をつけ、みんなで一つのお店を作り上げていこうとする意識の高まりをひびき合いとしたい。

4. 単元指導計画(18時間)

時	学 習 活 動	主な支援、留意点
1	○今までの学習を役立てて出来ることを話し合う。 ・どんなお店屋さんを開きたいか話し合う。 ・これからどんな準備をすればいいかを話し合う。	・今までの学習を思い出し、できることを考えさせる。
2 ～ 6	○マクドナルドに見学に行く。(3時間) ・バスを利用し料金の支払いや、乗り方を学ぶ。 ・店員や客の動きを観察する。 ○どんな仕事があったのかを話し合い、各自の役割を決める。(2時間) ・自分のやってみたい仕事を選び、可能かどうか検討し決定する。	・お店を開くための知識を得られるよう、助言しながら見学をさせる。 ・写真を用いて、思い出させながら、児童の能力に見合った仕事を選ばせる。
7 ～ 13	○マクドナルドに見学に行く。(3時間) ・自分の担当の仕事を詳しく観察する。 ○担当の仕事の練習をする。(4時間) ・観察してきたことをまとめ、練習する。	・自分の役割を認識させ、集中して見学できるように支援する。 ・各自の仕事内容をはっきりさせ、練習できるようにする。
14 本 時	◎お店を開く。 ・自分の役割を練習通りにやる。 ・コメントカードを読み、良かったところと今後の課題を考える。	・練習してきたことを発揮できるように声かけをする。 ・ハプニングに対応できるように練習をしておく。
15	○まとめ ・振り返りをし、これからの学習について考える。	・これからの学習について考える。
16	○お礼の手紙を書く。(各学級)	・気持ちを伝えるにはどんな内容を書けばいいのかを考える。
17 18	○お礼の手紙をマクドナルドに届ける。	・感謝の気持ちを伝えられるように練習しておく。

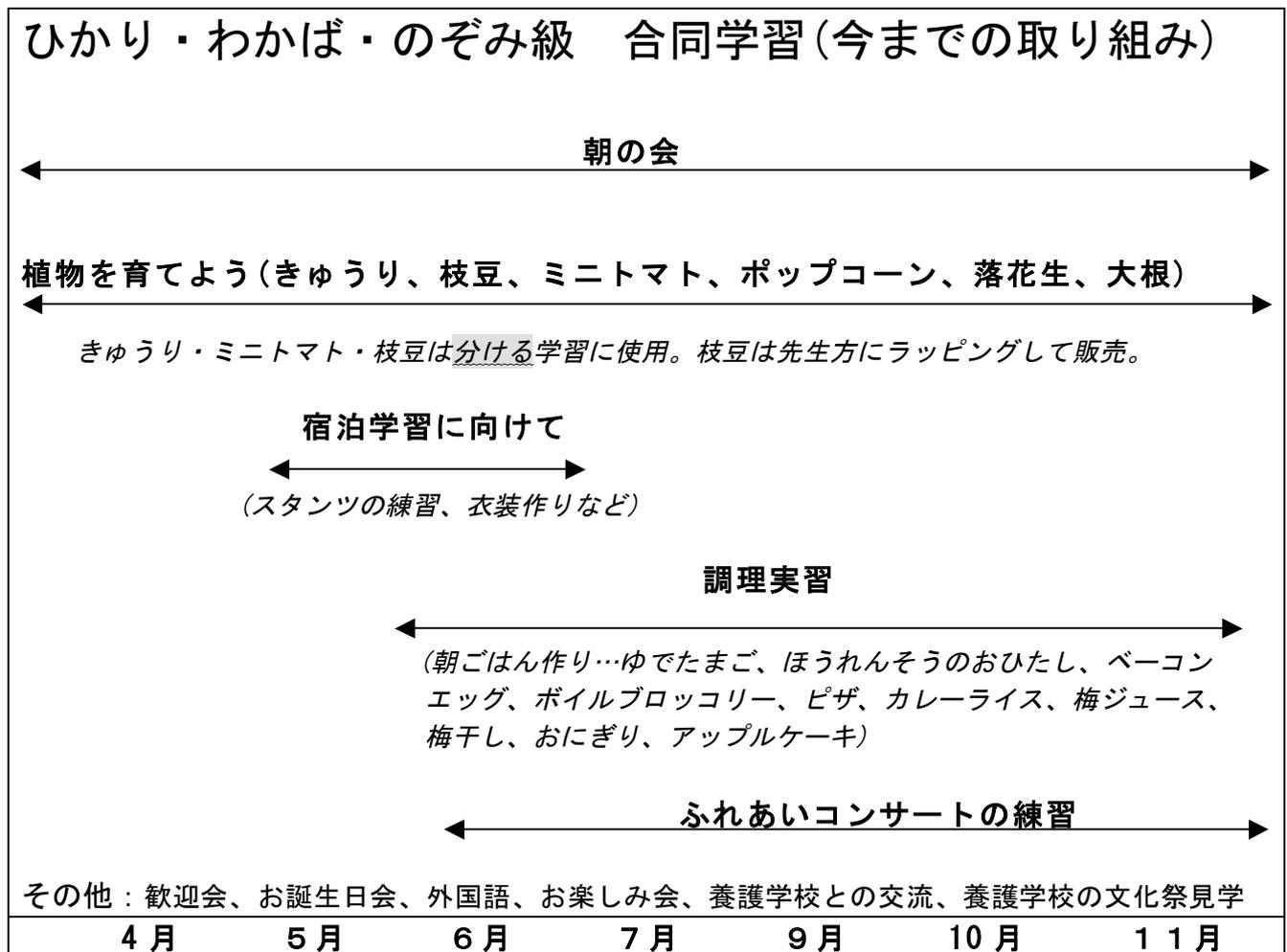
5. 本時について

- お店屋さんごっこの活動の流れに従って活動する。
- 自分の役割に応じた言動・作業で、お店屋さんごっこをする。

本時の展開

学習活動	児童の活動(◎)と支援(○)					備考
	A	B	C	D	E	
1 始めのあいさつ	◎ 日直の合図を聞き、あいさつをする。					
2 約束事を確認する ・お客さんへの言葉づかいや笑顔やあいさつなどの確認をする。	◎ 約束シールに注目し、読む。 ○ 約束シールに注目するよう個別に声かけをする。					約束事を書いた紙板書 約束シール

<p>3 おみせやさんごっこ</p> <p>・活動スペースに移動する。</p> <p>(1) 開店準備</p> <p>開店準備に必要な事柄を掲示する。</p> <p>(掲示例)</p> <p>①テーブルを拭く ②電卓・釣銭の用意 ③食器等の用意 ④調理の用意</p> <p>・役割や順番を掲示する</p>	<p>◎ 各自活動スペースに移動する。</p>					<p>身支度をする</p> <p>台ぶきん 電卓 硬貨各種 調理用具 調理用料 食器</p> <p>メニュー表</p> <p>レシート</p> <p>アンケート用紙</p>
	<p>◎ 開店準備に必要な用意をする。 ○ 不安そうな子には、支援をする。 ○ 児童の様子を観察し、楽しそうな雰囲気作りに心がけ、やる気を引き出す。</p>					
<p>4 活動のまとめ</p> <p>5 終わりのあいさつ</p>		<p>◎がんばったことや良かったことを発表する。 ◎元気にあいさつする。</p>	<p>◎がんばったことや良かったことを発表する。 ◎元気にあいさつする。</p>	<p>◎がんばったことや良かったことを発表する。 ◎元気にあいさつする。</p>	<p>◎がんばったことや良かったことを発表する。 ◎元気にあいさつする。</p>	<p>◎がんばったことや良かったことを発表する。 ◎元気にあいさつする。</p>



6. 実践を終えて

子どもたちの「お店屋さんを開きたい」という願いから始まった学習だった。子どもたちのつぶやきや、表情を読み取りながら、次にどうしたいかを引き出させながら単元を作ってきた。しかし、個学の子どもたちには教師が指し示してあげなければならない部分が多かった。

実際にハンバーガー屋さんに行き、店長さんやお店の方からの協力を得て、ハンバーガーの作り方、接客の仕方などを教えてもらうことができた。漠然としていた子どもたちのイメージが具体的なものとなり、アイデアも出されるようになった。お店に行く手段として、公共機関のバスに乗って行くことを子どもたちと決めた。バス停までの歩き方、信号の見方、横断歩道の渡り方の学習も行った。また、整理券の取り方、ブザーの押し方、運賃の払方も何度も練習を重ね、行くことができた。

当日も店長さんがお客さんとして子どもたちの学習に参加してくれたことも、準備と練習を重ね、成長したその姿を見せることができ、お客さんが来てくれるお店を開きたいという切実な願いを実現することができた。また、普段あまり関わりがない教師にお客さんになってもらうことで、本当のお客さんを接客する緊張感を保ちながら学習に取り組めた。

子どものアイデアを形にして、商品を包む紙や看板に生かすことができ、自分たちのお店という意識を高めることができた。友達の頑張りを感じたり、作った商品を見たりすることで意欲が高まった児童もいた。

個々の役割をしっかりと果たし、みんなで一つのを成功させたことは、練習すればできるようになることもあるという大きな自信に繋がった。

課題としては、何かハプニングが起きたとき、それをチャンスにして対応の仕方を全員で学び合う場にする必要があった。

自分の役割を教師や仲間から認められ、積極的に取り組もうとする姿が見られた。また、みんなで一つのお店を作り上げようとする意欲が感じられたのでひびき合いが見られた。

